

②大学生指導員の養成・確保に関する実証事業 企画提案書（事業概要資料）

実施計画名	大学生指導員の養成・確保に関する「SPORTS FOR ALL ダイバーシティプログラム」の実証事業 ～すべての生徒にスポーツをアクセス！、広まるSPODIP（スポディップ）の輪～
事業概要	①あらゆる生徒を包括する地域スポーツ活動の普及を担う学生指導員（女子・障害学生の積極的な参画も促進）の養成 ◆生徒や地域のニーズに対応する持続・汎用性の高いコンテンツ（指導種目・養成講習会内容・資格制度）の策定 ②スポーツ活動の体験格差を解消し多様な同世代交流を促進するダイバーシティプログラムの運用 ◆地域の生徒が拠点校に集う「拠点校方式」と学生指導員の対象校へのキャラバンによる「輪番校方式」の併用 ③地域社会や自治体から必要とされる大学の機能を高め地域スポーツ振興コンソーシアムへの参画 ◆スポーツ振興を支える「新たな一局」として独自の振興モデルを発表し行政・教育機関・民間事業者との共創

■大学生指導員の養成・確保に当たっての仕組みやフロー

SPORTS FOR ALL ダイバーシティプログラム：学生指導員養成の基本理念

教育課程外における地域スポーツ活動として競技・大会志向ではなくレクリエーション志向を基本とし、生徒たちが性別や障害の有無に関わらず同世代の多様な仲間とともに楽しく体を動かし、運動やスポーツに親しむ素養を育む機会を支援することを目的とする。

■オペレーション

STEP 1：2024年8-9月

地域スポーツを支える
学生指導員の養成

効果検証Ⅰ

STEP 2：2024年10-12月

対象校生徒への
プログラムの運用

効果検証Ⅱ

STEP 3：2025年1月

地域スポーツ振興
コンソーシアムへの参画

情報開示

日本スポーツ協会および日本パラスポーツ協会への加盟団体の種目を基本に、障害を有する生徒とも協働可能な「10種目」をプログラム種目として選定し指導冊子・養成手引資料を作成の上、本学に在籍する学生に幅広く周知し、学生指導員養成講習会を実施する。合格者にはサポーターの資格を付与する。

指導対象となる生徒は、性別や障害の有無を問わず部活動に所属する生徒はもとより部活動に所属していない生徒も対象とする。

地域や生徒のニーズに応じて実施種目をカスタマイズし指導を行う。

スポーツ活動の体験格差の解消とスポーツ活動機会の担保のため「拠点校方式*1」・「輪番校方式*2」を併用しプログラムを運用する。

学校部活動と協定関係にある団体や民間事業者等と綿密な情報共有により地域スポーツ振興の棲み分けをはかる。

次年度以降の業務受託や連携・人材供給に向けて本プログラムの報告書やリーフレット等を行政や教育機関の担当窓口へ提出する。

*1：複数の対象校の生徒が拠点校（大学）に集まり、合同スポーツ活動形式の取り組みを推進する
*2：学生指導員が対象校を輪番にキャラバンし、拠点校に来ることができない生徒にもスポーツ活動の機会を担保する

■事業を構想する上で注力をおいた事柄

- 他大学においても本プログラムを模倣することで、地域社会や自治体に必要とされる大学の機能を強化し、地域の実情に応じた地域スポーツ振興のコンソーシアムの醸成に波及すること。
- 国が本プログラムを接收しライセンス認定制度等の収益化により安定・継続的な事業となること。

■実証事業の検証・評価方法

効果検証Ⅰ

参画学生に対して地域のスポーツ活動への興味・関心等に関するアンケートを行い定量的に解析する。多角的な視点をもとに指導員養成制度の導入効果についてわかり易く可視化し、広く知見を提示する。

効果検証Ⅱ

対象生徒に対してプログラムの導入前後で運動習慣等に関するアンケートを行い定量的に解析する。多角的な視点をもとにプログラムの導入効果についてわかり易く可視化し、広く知見を提示する。

Plan → **Do** → **Check** → **Action** + **Share**

指導計画の策定
・支援内容の目標設定
・実施種目の選定

指導実践
・活動の事実を記録
・生徒の様子を記録

指導の振り返り
・生徒の声を集約と共有
・関係者の声を集約と共有

改善案の策定
・指導内容の再検討
・活動レポートの発信

地域団体・民間事業者等へ活動開示
・マッチング・リクルート機会等のネットワークの強化を促進
・学生指導員が卒業後も地域のスポーツ活動（部活動指導員、外部指導者、地域スポーツ指導者として）を継続支援

学生指導員の支援・指導スキル等に関するフォローアップを大学教職員が随時行う

■事業の実施体制図（学内体制に留まらず、地域の組織・団体との連携体制も示すこと）

